

# 町村に伺いました

訪問の様子とトピックスを随時お伝えしていきます。  
更新をご期待ください。

-町村の皆さんからお話を伺いました- No.9

## 幕別町役場

R2.6.17



幕別町は、自立支援協議会の各部会を定例で行い、農福連携や相談支援会議など、定例的に行っています。また、職場体験実習、チャレンジ雇用など他町に先駆け様々な仕組みを作り、その取り組みの周知により、グレーゾーンの方や引きこもりの方の掘り起こしの一助にもなっているとのことでした。課題としては、住民の多さや福祉サービスが増えていること、帯広市に近いことで利用事業所が多岐にわたるなどで、利用者と事業所の把握ができなくなっていることと話されていました。その方にとっての計画やサービスの利用が対処法ではなく、5年10年先を考えた目標になっているかを目指し、今後、町がどのように利用者の計画を確認していくかが目標のようです。

住民福祉部福祉課・課長の樫木さん（左上）、同じく障がい福祉係・係長の塚本さん（右上）、同じく主査の上原さん（左下）、同じく障がい者就労・発達支援コーディネーターの菊地さん（右下）にご対応いただきました



## クローバー共同作業所

R2.6.17



クローバー共同作業所は、平成3年の開設以来、精神障がいのある方をはじめ、様々な生きづらさを抱えている方が地域で暮らしていけることを願い活動を続けています。現在は24名の利用登録があり、町のコロナ対策として、児童に配布するためのマスク制作を委託され、作業を行っているとのこと。また、就職に向かう能力のある方の支援に対し、体験や実習などで仕事のイメージをつけていくことが必要とのことでした。町内の関係機関と連携して、就職場所だけでなく、仕事の体験や就職に向けての段階的支援を行うことができると、一歩進むことができるのではないかなど、状況の共有をしました。

理事長・施設長の酒井さん（左）、サービス管理責任者・職業指導員の田中さん（右）にご対応いただきました



## 池田町役場

R2.6.17



池田町は、委託をしている町内の相談支援事業所との情報共有や町内事業所を利用されている方の把握を意識しているなど、町直営の相談支援事業所がない中でも、行政と民間事業所との良い関係が作られてきていると感じました。また、ここ2～3年、制度の活用をしていなかった方からの相談が年に10名ほどあり、潜在的なニーズの掘り起こしを進めることが必要とのことでした。そのため「断らない相談窓口」を意識し、ライフステージごとに設置されている「児童」「障がい」「高齢」の福祉の窓口が連携していけるように考えていきたいとのことでした。

福祉課福祉係・係長の内山さん（左）、同じく主任の林さん（中）、同じく主事の永川さん（右）にご対応いただきました



今回は、東十勝の幕別町・池田町に伺いました。今回の話し合いでは、人口規模の差により課題が異なること、それぞれの特色や今後の戦略を確認することができました。地域から声が集まりやすい顔の見える関係性のある町では、ニーズの把握や周囲の見守りの体制がおのずと作られています。また、資源があり支援体制が充実している町では、出来上がっているもののマイナーチェンジを繰り返しながら現状に合った体制を作っていくことの大切さも感じました。その地域の特色の良さを生かし、その町ならではの仕組みづくりを模索されていることを5月21日から始まった訪問で感じており、今月中で各役場訪問が終了するため、ぜひ、皆さんと情報と沢山のヒントを共有できる場を持ちたいと考えております。